

ウリコヒメ

作・小野寺邦彦

(登場人物)

・ウリコ

・アマノ

【1】

売り子のウリコが売り口上をガナリつつ、現れる。

ウリコ カンカラリンのカンコロロン。おせんにキャラメル、じゃがポックル。くりんくりんのアイスクリン。ハッピーターンに月の石。珍品・奇品に玉石混交、取り交ぜーの、販売いたしております。行楽のお供、別れ話の気まずい沈黙、物語の待ち時間に、おヒトツイががでしよーか。：おせんにキャラメル、じゃがポックル。くりんくりんのアイスクリン。ハッピーターンに月の石…。

アマノジャクのアマノ、現れる。

アマノ ひとつおくれ、売り子さん。

ウリコ あーい、毎度。何にしましよ。

アマノ 何があるんだっけ。

ウリコ おせんにキャラメル、じゃがポックル。くりんくりんのアイスクリン。ハッピーターンに月の石。

アマノ あ、それだ。月の石、くれ。

ウリコ ハイハイ、ちよんの間、お待ちを。

と、ウリコ、やおら服を脱ぎだす。

アマノ ちよちよちよ、何してんだ。

ウリコ え？モチのロンで、もろ肌剥かなきや、春は売れませんけど。

アマノ アンタ、春売りがい。

ウリコ そうでっせ。若いミソラで春を売る、木瓜も嬉しき、ウリコ姫。

アマノ 売り子の、姫。

ウリコ ハイ、春の相場、一覽早見表。

ウリコ、ペラ紙を一枚、アマノに手渡した。

アマノ ；おせんとキャラメル、30分。じゃがポックルは2時間半。ハッピーターンは8時間。月の石は：一か月？

ウリコ サブスクや。サブスクリプション・サービス。このカラダ、一か月間定額抱きたいホーダイ。お得ヨン。

アマノ 売春もサブスクか。時代だぜ。

ウリコ 身の丈と性欲に見合ったプランをお選び頂けマス。

アマノ ；売り子さん、俺はよ、アマノジャクのアマノってチンケなチンピラだけだよ。

ウリコ アマノジャク？

アマノ 世間知らずの小娘、まずは口八丁で転がす。

ウリコ コンコロリン。路傍のライク・ア・ローリング・ストーン。

アマノ 余った手八丁で、身ぐるみの生皮へロリと剥がして、売り飛ばす。

ウリコ まだ五分咲きの、春のつぼみの剪定業者ですナ。

アマノ そのカターいつぼみに小指を立て、手つかずの甘皮、スルリ！と剥いで、真っ赤な赤身を拝む瞬間こそ醍醐味よ。

ウリコ よっ！ジゴロ！

アマノ それが、アンタはどーだ。頼んでもいねえウチから、自分でスルつと生皮剥いじやってよ。：シラけたぜ。

ウリコ そんじゃあ、ケーヤク破棄？

アマノ 据え膳に手を付けたとあっちゃあ、アマノジャクの面目が立たねえ。

ウリコ ショボーン。：そんじゃあ。

ウリコ、脱いだ服を着直して去りかける…と、アマノ、その服をパッと剥いで。

アマノ ホレ、万両。(と、金を手渡す)

ウリコ エッ？コレってどんな手の平返し？

アマノ アゲル、と言われりや、いらねえ。アゲない、と言われりや頂く。それがアマノジャク！

ウリコ アゲル。

アマノ と言われりや、いらねえ！

ウリコ アゲない。

アマノ と言われりや、よこせ！

ウリコ アゲル。

アマノ いらねえ！

ウリコ アゲない。

アマノ よこせ！

応酬続く中、ウリコとアマノ、くんづほぐれつ、クルクルと絡まり合う。それは情事のメタファ。その繰り返しの果てに、一か月の時間が流れる。

ウリコ ひゃあーっ。ライク・ア・ローリングストーンの手の平に翻弄されて、くるっくるっく。

アマノ ハアハア…。生皮剥いても、剥いても、剥き尽くせねえ。甘皮の玉ねぎアンリミテッド・エディションだ！アマノジャクの手八丁を尽くして三十一夜、小娘の春ひとつ、スカンピンに剥きあげられねえとは！

ウリコ 一か月のサブスクを使い果たして、コレが最後の晩だね、ニーさん。

アマノ ヤキが回ったぜ。寝物語にせめて聞かせてくれ、売り子さん。若いミソラで春を売る、その由来とその事情を。

ウリコ (スツと立ち上がり)：ミュージック・プリーズ。

と、ウリコにスポット。音楽が流れてくる。

ウリコ …アタシが初めて春をひさいだのは、忘れもしない、そう十五、いやさ十六、やっぱし十七。番茶も出鼻を挫かれて、妙に肌寒く花冷えた春の初めのことでした、たぶ

ん。…(アマノに向かつて) おとつつあん!

アマノ シーン。

ウリコ ノってよオ。…おとつつあん。

アマノ おれが? ヤダね。

ウリコ じゃやんなくて、いい。

アマノ やらいでか。

ウリコ アマノジャク。

アマノ、父親に扮する。めちやめちや、ノる。

アマノ(父) ウリコ。ごめんさんやケドな。その生皮とそのカラダ、売って銭をこしらえてくれんか。

ウリコ おとつつあんよ。そりや、いいケドさ。十七の娘の今がつぼみを、なんぼほど差し出せば、おつかさん呼び戻す銭が作れんの。

父 ハッピーターンにひつついた粉コナ、100個ぜんぶ足した数よりちよっと多いくらいかなあ。

ウリコ そんなに! 擦り切れちゃう。

父 おとつつあんもナ。ちよいと出稼ぎに出るワイな。

ウリコ 出稼ぎ?

父 コレでもな。昔は、音に聞こえた女泣かせよ。寂しい寂しい、泣いてる社長夫人でも2, 3, コマせば、お前が稼ぐハッピーターンの粉コナ5, 6粒分の足しにはなるやろ。堪忍やで、ウリコ。ウリコ姫。カイショなしの親父の尻ぬぐいに春を売る娘よ。その春が売り切れて、番茶も出花がしつとりと苦み走ったエスプレッソにまで出廻らした頃、きつと迎えにくるからナ。まずお母ちゃん、それからウリコ。それでスツカリ元通りや。水入りナシの三人家族で暮らした、かつてのあの三角屋根の小さな二階建てで、額縁入りの一家団欒、きつと取り戻そ。…せいじゃあ。(去りかける)。

ウリコ おとつつあん!

父 (戻ってきて) ハイ、コレ振込先。仕送りガツチリ、頼むデ。

父(アマノ)、去るアクション。見送るウリコ。

ウリコ …それでは、聞いて下さい。「春にはぐれて」。

♪ 着の身 着のまま 君の名は 春にはぐれた 花言葉

フォール・イン・ラブ なぜいつも 落ちてゆくばかりなの

私はこの恋を あなたまで駆けあがりたい

ウララ、ウララカ、春うらら ウツラ、ウツラと夢の中

ウリコ ホンじゃここいらで会場にお越しのお客様にも、マイクを握って頂きますショウ。

…ハイ、つむじ曲がりのおニーさん。

アマノ え、オレ? ヤだよ。

ウリコ じゃ、イイヤ。

アマノ マイクよこせ！
ウリコ プロフィールから、ドーゾ。

アマノ ……コホン。オレ、アマノジャクです。左曲がりの捻くれモン。医者が言うには、親の愛情不足に由来する、自己肯定感の低さと他人に対する不信感が原因だってハナシです。

ウリコ ……んじゃ、認知行動に働きかける精神療法を試しましょっか。自分で自分を褒めてください。

アマノ イヤだね。

ウリコ 腹を割って。本音で喋って。

アマノ アマノジャクに本音はねえ！ヒトがAと言えばB。Bと言えばA。逆張りの反射行動、あるのみよ。

ウリコ そんな反復横つ飛びじゃ、社会生活の波は飛び越えられないでしょ。

アマノ 幸いにも、口八丁と手八丁には恵まれてら。ヒト様の皮を頂いて、そいつを被ってやり過ぎしてきたのよ。それでもって、どいつもこいつも、薄皮一枚、ペロリとめくれればウブい赤身を拝ませてくれたぜ。売り子さん、アンタ以外はネ。

ウリコ 剥いても剥いても剥ききれない、分厚いロールのこの肌は、きつと、おとつつあんの仕込んだ愛情です。

アマノ 愛情？

ウリコ 借金のカタに娘の身体を売ッ払うカイショなしだけど、幼い日から一枚、また一枚と重ね着され続けた、愛という名のこの肌が、すっかりズル剥けの在庫ナシになっちまうまで、アタシ、おとつつあんなを憎めない。ほんに、愛とは呪いの別名でアリマス。

アマノとウリコのデュエット。

アマノ ♪ウララ、ウララカ、春うらら

ウリコ ♪ウツラ、ウツラと夢の中

ウリコ・アマノ ♪着の身 着のまま 君の名は 春にはぐれた 花言葉

ジャン、と演奏が終われば、いつしか空も白み始めております。

ウリコ ……歌わせて頂きました。と、シラジラしく夜も明けてきたところで、ドロンときよなら。

アマノ 待ちなよ。

ウリコ サブスクの期限切れでっせ。

アマノ 更新しよう。月の石、1000個ぶん！

ウリコ えっ？

アマノ、ドサドサと花びらが散るようにゲンナマを降らせる。

アマノ おれがこれまで剥いできた、皮・皮・皮のぜんぶを質入れして乱れ咲く、このゲンナマと引き換えだ！

ウリコ 総上げだ！狂い咲きだ！どーいったワケでの大盤振る舞いなンス？

アマノ ソソられたぜ、売り子さん。剥いても剥いても剥ぎ切れねえ程、着ぶくれに押しつけられて持ち重りするその情け。アンタがおとつあんと呼ぶカイシヨなしから、このアマノジャク、そっくり頂いてやりたくなたあ！

ウリコ じゃ、新しいおとつあんになつてくれんの？

アマノ ソイツはゴメンだ！ヒトの皮を破るのは、もう飽きたぜ。古いオトコの皮を一枚一枚剥いでいき、いつかアンタを真っ裸の赤身にムいたのなら、その上から、今度はオレが、新しい皮を一枚・また一枚とコーティングしてやる。おとつあんがアンタにそうしたように。剥ぎきれねえほどの、愛情と、執着を。このゲンナマはな、それにかかる時間を買う為の、通行手形よ。

ウリコ アンタのゲンナマに糸目がなくなつたって、アタシの春には、散りドキがあるんだ。

アマノ 花に嵐の例えを出したな。詩人が言ったぜ。サヨナラだけが人生ならば、また来る春はなんだるナ？つてサ。

ウリコ え？

アマノ 散つては咲きのウロボロス、アンタの春の散り際は、オレが決める。稼ぎのすべをつぎ込んだこのサブスク、今日から一夜に一枚、アンタの肌を剥ぎ、ついにストップボンの赤身を拝めるその日が来るまで、買い取った期日が切れるのが先か？オレか、アンタ、いずれかの寿命が尽きるのが先か？一世一代の丁半博打といこう。

ウリコ 赤身が出る頃にや、アタシきつとババアだ。

アマノ ババアでも春だ。

ウリコ やつと剥いた皮の中身が、いかなるザマであっても？

アマノ どんなザマであっても、だ。

ウリコ フーン。じゃ、まあ、梅にウグイス、ヒトツよろしく。…と言った舌の根が乾か

ぬチョンの間、おヒマを貰ってイーかい。

アマノ どこ行くんだよ。

ウリコ アンタが降らせた銭コをさ、おとつあんに振り込んでやらなきや。

アマノ チャンと戻つてくるんだぜ。

ウリコ ウン。心配ないよ。この振込でキレーさっぱり、おとつあんとはケジメをつけて、今夜からはこの身体、アマノジャク、アンタにひさぐウリコヒメだ。心配ないよ。心配ない。スグに戻ってくるからサ。戻ってきたら…この皮、一枚・一枚、丁寧に剥いておくれよネ。

ウリコ、去る。

アマノ …そう言つて、彼女は戻つて来ませんでした。

暗転。

【2】

明転。道端に崩れ落ちるように転がっているウリコ。近づくアマノ。

アマノ 夜来風雨の声。花落つる路傍のライク・ア・ローリング・ストーン。

：それから何日目かの朝。私は散り切った春の残骸を見つけました。永劫のサブスクで買いつつた、私の、肌を。：（ウリコに）探したよ。まだたつぷりとサブスクのレンタル期間は残ってるんだぜ。定額抱きたい放題。

ウリコ、ピクリとも動かない。

アマノ 出涸らしだ。こんなにシオれちまってよ。何があつたんだい、売り子さん。聞かせてくれ、得意の寝物語でサ。：借りるぜ、その皮。

アマノ、ウリコを抱き、その皮を剥いて被るアクション。すると、ウリコは母に、アマノは父に代わる。ウリコの回想。

ウリコ（母） あんた。あの子だったら：ウリコったら、まだ起きてこないんすよ。

アマノ（父） とんでもテツペン。まだ昼前で、オマケに今日は日曜だ。

母 学校だって毎日遅刻して。平気な顔してんです。

父 スリーピング・ビューティ。大物だ。オレの血だ。

母 昼行燈のDNAなんていらぬのにイ！

まあイチャついてるのである。と、アマノ、一瞬皮を戻して。

アマノ ：おとつつあんに、おつかさん。買い戻せたんだな。額縁入りの一家団欒。

ウリコ そうじゃねえんです。

アマノ え？

ウリコ アタシ、出かけてゆきました。いっぺんだけ届いたいつかの頼りに記されていた、おとつつあんの出稼ぎ先の住所まで。：そこに、おとつつあんがいました。隣に、おつかさんもいました。

アマノ そしてそこに収まったんだろ売り子さん、アンタも。絵にかいた一家団欒の額縁にスツポリ。

ウリコ だから、そうじゃねえんです。訪ねていった先でおとつつあんと暮ら

していたそのヒトは：おつかさんじゃなかった。

アマノ えっ？

ウリコ おつかさんにソックリよく似た生き写し、けれど：けれど別の女の人だったんす。アマノ 別のオンナ：？

ウリコ 春眠が見逃した暁の朝。アタシは調べ当てたおとつつあんの住まいへと向かった。どんな暮らししてんだろ。くたばってんじゃないかしら。それでもイイヤ。ただ一目、その姿をマナコに収めたら、キピスを返して立ち去ろう。そんなとき、スルリと一枚使い古した肌を脱ぎ捨てて、もっぺんアタシの春が、ジンサーってやつが、リスタートするんだ。：けれど探し当てたその住まいへ辿り着いた瞬間、アタシの血がザワザワと逆流した！

アマノ どんな家だったんだい。

ウリコ 三角屋根の小さな二階建て。門柱。表札。玄関。植え込み。窓のカタチ。換気扇の音。：知ってる。アタシはこの家を知ってる。臉の裏に焼き付いた、かつてのあの日々。

アタシが…おっかさんと、おとつあんと住んでいた家に、そこはウリ二つのまつぶた
っ！

アマノ まさか！

ウリコ 動悸を抑えて、裏庭へと回った。アタシは知っていた。そこにはリビング・ルー
ムを覗き見ることで、大きな窓があること。その窓越しに、家の中を覗き見た。
そこにはホトホトと懐かしい風景があった。冷蔵庫。食器棚。テーブル。テレビ。カー
ペットのケバ立ち一つに至るまで、ぜんぶあの頃と同んなじモノが、同んなじ場所に、
寸分たがわず再現されたケシキ。…声が聞こえて、人影が見えた。おとつあんだ。そ
して…そして、その隣にはおっかさん！…じゃ、なかった。おっかさんにソックリな、
でもおっかさんとは違う人。おとつあんのイイヒト、新しい奥さん。

部屋の上空、二階の空間から、ウリコとそっくりウリ二つの声が聞こえてくる。

声 …おはよーサン…。

アマノ …！！

瞬間、皮を被ってウリコは母に、アマノは父に変わる。

声 おはよーサン…。

ウリコ(母) おそよーサンやで、ウリコ！

声 おっかさん、朝ごはん。

母 もうテップペン過ぎだよ。DNAのなせるワザだよ。宵つぱりの昼行燈が板についちまっ
てサ。

アマノ(父) マーマー、のマーとくらあ。平たく、平たく。起き抜けの出し抜けに、
ケンカしたってつまらんぜ。ウリコ、下りて来な。…目ヤニをキレーに取ってからな。

声 アイイ。

声の主、二階の階段を降りて、いま、部屋に入ってくる気配。ガチャリ！とドアの空く音。
その瞬間、時が凍り付く。

ウリコ アタシだ！…アタシが入って来る！今、あのドアをバンとあけっぴろげて部屋に
入ってくるのは…ウ・リ・コ。アタシと同んなじ名前の、同んなじ顔した、アタシにソ
ックリウリ二つ、生き写しの女の子。けれどたったヒトツ、違いがあるとすれば、それ
は…ソレは…

アマノ よせっ！

ウリコ まだつぼみの春が、売るほどの春が、いっぺんも剥かれたことのないその手付か
ずの肌には、みっしりと貼りついてるってこと！

アマノ その皮を脱げっ！ウリコ姫！

アマノ、ウリコの生皮に手をかける。二人、くるくるとその場で回りながら。

ウリコ 離してっ！

アマノ と言われちや、離せねえ！

ウリコ 離してっ！

アマノ と言われちや、離せねえ！…甘皮！…甘皮！…甘皮！…甘皮！…畜生！剥いても剥いても、皮ばっかりで、赤身のスカンピンが出てこねえ！

アマノ、へたり込む。ウリコ、糸が切れたように、その場に立ち尽くす。

ウリコ …分かったんです。分かっちゃまった。おとつあんの…アノ人の愛情は、愛つてやつは、そう、サブスクだったんす。一定期間・定額愛したい放題。けれどやがて更新期限がやってくれば…スルリと一枚、古びた肌をさっぱりと脱いで捨てるように、アタシとおっかさんを捨てていった。そして新しい場所で、新しいサブスクを始めたんだ。…ソです。どんだけ皮を剥いて探してみたって、いないんす。ウリコ姫なんて。だってアタシが、アタシ自身こそが…脱ぎ捨てられた、アノ人のカワゴロモそのものだったんだから！

アマノ 剥いても、剥いても、剥き尽くせない、甘皮の玉ねぎアンリミテッド・エディシヨンの、そいつが事情だったのかい。

ウリコ (陽気に) カンラカラカラ、カン口飴！コロモと尻尾をキメラにして揚げた、学生食堂の奇跡・カラッポエビ天と一緒だ！初めっから皮しかねえのに、その中からどうやって赤身を見つけてるってんだイ！

ウリコ、高い場所に登り、首をくるアクション。アマノ、それを見ている。

ウリコ サテお立合い！これな一本のハルニレの枝に首くくり、見事！宙吊りなった曉には、アタシの身体はハルニレの早贄。ブランと吊り下がった生皮から、初めしとどに、やがてポタポタと水が滴り落ちますれば、地面を濡らし続ける十月十日。すっかり出廻らしてベロベロの抜け殻ブラ下がり仕上がる頃、また来る春、足元の濡れた土から、ある日ポン！とあまたつぼみが芽吹くのでアリマス。その手つかずの、カターいつぼみこそ、ウリコの、赤身！これぞアルキメデスもびっくり、反ユークリッド幾何学的帰納法に添い寝した、不可逆時間の再生実証実験だ！…だからさ、だからネ。首をくくったこの皮を、せめて次の春までは、どうかそのままに、置いていっておくれよね。ポタリと滴り落ちるドリップが、地面にすっかり出廻らして、ラテアートを描き終わるまでサ。

アマノ モノ言いだ！そいつは契約違反じゃねえのか、売り子のネーさん。

ウリコ オツと！物言いが入った！

アマノ オレかアンタ、どっちかの寿命が尽きるまでが、すべての稼ぎを投げうったサブスク丁半博打の期限だろ。テメエの都合でテメエ勝手に、テメエの命にケリつけられちやあ、こっちやあ抱きたい放題先払いの払い損、イカサマジやねえか！

ウリコ ニヤリ。だから言ったじゃねえか。イかなるザマであっても、つて。

アマノ えっ？

ウリコ そうさコイツはイカサマだ。騙されたねアマノジャクのニイさん。舌八丁がもつれちまったのなら、お代は見たらお帰り、返金はナシのつぶてだい！

ウリコ、宙吊りになる。と、ドサリと地面に落ちるとそのまま動かなくなった。

アマノ ……これにて奇譚・ウリコヒメ、一卷のオシマイだ。番茶も出花の十七歳。一人娘がなげなしの春と肌とをすっかり売っぱらって稼いだ仕送りを使い込んだオトコが手にしたモノは、テメエが脱ぎ捨てたのとまたソックリ同じ家、ソックリ同じ連れ合い、そしてソックリ同じ娘ときた！夜来風雨の声。花落つる路傍のライク・ア・ローリング・ストーン。…それから何日目かの朝。私は散り切った春の残骸を見つけました。永劫のサブスクで買いつつた、私の、肌を。…（ウリコに）探したよ。まだたっぷり、レンタル期間は残ってるんだぜ。定額抱きたい放題。借りるぜ、その皮。

アマノ、皮を被る仕事。と、ウリコ、ウソみたいにヒョイと起き上がった。

ウリコ アレ？おとつあん？

アマノ アー、そうだよ、ウリコ。お前のおとつあんだよ。

ウリコ ……と思ったけど、違うかな？違うよね。でもサ、へへへ。よく似てマスね。

アマノ お前様の肌と契ったアマノジャクは、腹をくくったよ。別れのキワツキワに、置いてけなんて言われちゃあ、置いてくわけにはいかねえや。アンタがよ、脱ぎ捨てられた皮ゴロモだってんなら、仕方ねえ。その皮被って、オイラがアンタの赤身になる他ねえや。呼んでくれ、おとつあん、とサ。このサブスクの期限が切れるまでイカナザマになるうと、こつから先、オレらあ、二人でヒトツの影ボーシだ。

ウリコ アタシが皮で、アンタが赤身？カンラカラカラ、コイツはオカシーや。

アマノ ……さ、口上をくれ。売り子の姫の、口上だ。

ウリコ、元気いっぱい。

ウリコ カンカラリンのカンコロロン。おせんにキラメル、じゃがポツクル。くりんくりんのアイスクリン。ハッピーターンに月の石。珍品・奇品に玉石混交、取り交ぜーの、販売いたしております。行楽のお供、別れ話の気まずい沈黙、物語の待ち時間に、おヒトツいががでしよーか。…おせんにキラメル、じゃがポツクル。くりんくりんのアイスクリン。ハッピーターンに月の石…。

アマノ それだっ！…買ったぜ、月の石。

世界はアツという間に闇に包まれた。オワリ。